

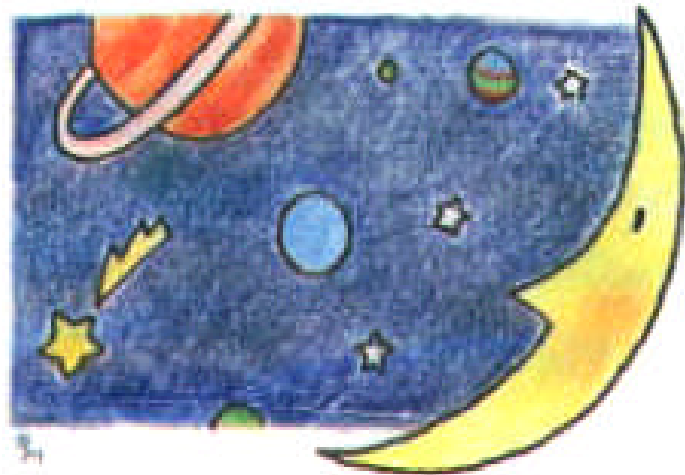
UA 神奈川学習センター

なつ だより

1999年7月1日
第2巻第3号(通巻7号)

ハイライト

- 1 ディネセンの言葉
- 2 特集: 同好会の活動報告
- 3 特集: 面接授業について
- 5 談話室のポットと窓拭き
- 6 往復書簡
北欧観光見聞記
- 7 学生団体・サークル
のお知らせ



どんな悲しみでも、それを物語に変えるか、
それについて物語れば、堪えられる。

イサク・ディネセン

放送大学神奈川学習センター
〒232-0061 横浜市南区大岡2-31-1
TEL: 045-710-1910
FAX: 045-710-1914
<http://www.dango.ne.jp/ua-kanag/>

特集: 同好会の活動報告

「箱根ハイキング」：放友会

芝崎 芳和

今回のハイキングは、「外に出て新緑を歩こう」がテーマである。日頃たまっている、勉強と仕事のストレスをリフレッシュさせ、同時に、箱根の歴史を訪ね、旧街道を散策することを企てた。参加したのは、男女十三名。小田原駅からバスに乗り込む。折しも梅雨入りが報じられたが、この六月六日の空には、箱根独特のガスも見られず、山々もくっきりと見え、我々を迎えてくれる。

バスは小田原市街を抜けると、やがて箱根湯本を経て早川沿いの街道に入る。新道が出来て、車は少なくなったが、この街道が本当の東海道の、沿線には由緒ある温泉場が点在している。二子山の麓を周り、芦ノ湖畔に出る。湖畔の赤い大鳥居をくぐれば、目指す元箱根の関所はまもなくである。

箱根関所跡は、国道から湖寄りにちょっと入ったところにある。建物自体には重々しさは感じられないが、全体として冷厳な雰囲気がある。番所内には旅人を威嚇した突棒、刺叉、袖搦みなどが展示され、役人の取り調べの様子が人形で再現されているおり、いかにも関所という趣が再現されている。周辺には、礎石や首洗い井戸などの処刑に関する史跡が見られ、当時の残酷さに思いをいたしながら、関所を後にする。

大鳥居に戻り、急坂をエスカレーターで登ると、芦ノ湖を見下ろす丘の上にある、第二の見学場所である成川美術館に着く。建物は和風で、なかには現代日本画を代表する人びとの作品が集められている。東山魁夷、杉山寧、高山辰雄、平山郁夫など

の巨匠と称された方々の話題作が展示されている。美術には疎い私にも、なにか圧倒的なものを感じさせられる空間がそこにあった。

美術館を後にして、舗装道路を離れ、箱根旧街道の杉並木に入る。この杉並木をぬけて昔そのままの狭い石ころ道になると、息の切れる急坂が延々と続く。登り切ったところに展望台があり、そこから二子山が見える。この頂上には、無線鉄塔がある。ここは、テレビの全国中継を初めて行うときに使われた、マイクロウェーブの箱根越えの中継所である。当時の関係者のひとりとして、歴史を感じる場所である。東京渋谷を出た電波は、横浜の円海山を経てここに至り、その次に静岡県の上原中継所へと、東海道を下っていく。飛脚を使っていた江戸時代から今日まで、情報通信についても、箱根には歴史がある。

旧街道に戻り、途中「甘酒茶屋」に寄る。赤穂浪士神崎与五郎の詫証文の謂れを読みながら一服した。道々、懐かしい箱根乙女桜や山椒薔薇が見られ、初恋の人に出会えたように心が弾んだ。最後は、畑宿へ出て、ここからバスで須雲川沿いに湯本に向かい、温泉で汗を落とした。反省会后、解散となった。

にこにこ交流：

神奈川学習センター合唱団

皆川昭三

かねてより企画していた慰問行事を、5月12日午後より、道路向かいの大岡地域ケアプラザへ赴いて実施できました。

私たち10名でしたが、聞かせる歌が3曲、みんなで唄える歌2曲、当所の希望曲2曲、そしてみんなが覚えた「だんご三兄弟」を楽しく陽気に唄いこなしました。デイケアセンターには、30余名の高齢者、障害者が通所型のケアサービスをうけておられ、その日その日のメニ

ューに従って手足の運動や細工、遊戯、そして歌、クイズで、楽しみながら懸命に体を動かし、小楽器も使い慣れており、とても明るく、職員の機転器用さに、全員が信頼で結ばれています。

歌が終わると、今度はビンゴゲームです。私たちコーラスの部員も仲間に加わり、七つのテーブルに分散します。彼らも車椅子で、あっちだよ、こっちだよと言われるままに自力で移動して席をきめます。この移動も彼らには大変な仕事と思われるかもしれませんが、体の運動となり適宜刺激となるようです。ビンゴの用紙とサインペンが配られます。5×5の升目は白紙です。司会者が野菜と果物の名前を書き入れなさいと言う。各テーブルのメンバーが頭を絞って書き出す。25の名前が考え浮かばず、やっと埋められたところで、司会者が野菜の名前を挙げる。読み上げた名前があるとマジックペンで消していく。以下通常行われている数字のビンゴと同じ要領で、最初に上がったチームは10点、次が8点、6点、4点という具合。今度は魚の名前を書いて下さい。と言われて、又用紙。次は県名で、又用紙。頭で考える事と書くことが彼らのリハビリになるようです。こうして笑い興じて楽しい一日を過ごして、帰りは施設のワゴン車で自宅へ。

私たちも、お陰で福祉の現場を学び、且つ楽しい一日となりました。みんなが喜んで迎えて下さった事に感謝しています。

特集: 面接授業について

面接授業「逸脱の社会学」を 受講して

松本 道男

平成9年1学期の面接授業で緑川徹先生の「逸脱の社会学」を受講しました。この面接授業では授業の度にレポ - トの提出を求められます。従って、幅広い角度で逸脱現象を取り上げ、その逸脱現象を学習した理論に基づいて説明し、報告文を記述しなければなりません。授業ごとに私が提出したレポ - トは次の通りです。

- (1)情報社会と国家の犯罪について
- (2)性善説と性悪説について
- (3)諫早湾干拓事業と官僚制メカニズムについて
- (4)いじめの構造について

最終レポ - トは『援助交際』を取り挙げました。今後受講する皆さんのご参考になればと思いこの特集号に掲載させていただきます。

先般、東研出版より「"援助交際"の少女たち - どうする大人? どうする学校?」という小冊子が出版された。このブックレットは教育関係者による「"人間と性"教育研究協議会」で二人の女性教師が学校で直面した援助交際の実態を発表したのを一橋大学の講師の先生が編集したものである。この小冊子は、高校での事例として、「援助交際仲間の同級生は5人」「ほかのグル - プもいる」とその実態を掲げ、なぜ援助交際に走ったかを掘り下げている。父の暴力におびえて暮らしている少女や、一見何不自由ない家庭で育っている少女らの中での共通点は、5人全員が「親に受入れてもらえない」、特に「父親とのコミュニケーションの不足」をあげている。また、中学

の事例としては、生徒2人から援助交際をしていることを聞き出している。少女たちは、それぞれの家庭でのトラブルを持ち、その寂しさを埋めるためにテレクラに電話をしており、それがきっかけになっている。このことは、たまたま氷山の一角としてわかったのであって、知らないのは親と教師だけかも知れないのである。どちらの例も親子のコミュニケーションの欠落が少女たちを援助交際に走らせてしまったのである。学校も家庭も「少女たちの心を理解していない」と嘆いていた高校の先生は、その解決策の一つとして、援助交際の少女たちの心を理解するために、「高校生の時に援助交際をした」という短大生を招いて、話を聞いている。その結果、彼女は「売春でなく、ネ - ミングがハ - ドルを低くした」と語っている。また、「"ウリ"（売春）のお金は価値がなくてパ - ッと使ってしまう。大切なお金はアルバイトで稼ぐ」とも話している。そして、「自分で自分の体を張って何が悪い」と言うツツパリの思いがあった反面、先生から「あなたのこと、とっても大事に思っているのよ」と言われて心が揺れてしまったことを告白している。

この小冊子及び最近新聞紙上を賑わしている「援助交際」という逸脱行為をいろいろ分析していくと、援助交際は「お金が欲しいから売春する」だけではない一面があり、「友達より学習する」という学習理論に従って確実に増えている一方で、援助交際はいじめと似た構図も持っているのである。皆がやっているからという一種の集団心理構図が、安易に援助交際の心を増長させていると考えられる。この心理構図は逸脱の社会学から見ると、「同調圧力理論」と言えるのではないだろうか。

次に、援助交際に入っていく段階を分析してみると、小冊子や新聞記事の記載にもあるよう

に、「心の寂しさを埋めるため」、「見ず知らずのだれかと話をしたかった」、「自分の中のものを吐き出したかった」というテレクラとの深い関わりが浮かんでくる。そこで、少女らとテレクラとの関係を調べて見ると、テレクラなどを利用したことがある女子高生は36%、女子中学生も25%となっている。また、テレクラの利用回数では5回以下が63%、21回以上が14%にもものぼっていて、統計上では慣習化されていることがわかし、通信機器の普及とも深く結び付いていることがよくわかる。

小冊子に記載の援助交際は、学校でたまたま見付け出した事例であって、先程のテレクラ同様、東京都が纏めた「青少年の生活意識調査」によると、援助交際では、女子高生の4%、女子中学生も3.8%が「したことがある」と答えており、「周囲に経験者がいる」と答えた女子高生は35%にのぼっている。

このように見てくると、「資質×環境」と「個人×社会」が援助交際という犯罪を作り上げており、ここにはサザランドが説く逸脱発生理論が当て嵌まっている。(1)逸脱は集団の中で学習されるものであって、自然に行われるものではない。(2)その学習が逸脱的な文化を伝える側と受け取る側の双方の主観的な定義を通じて行われる。(3)個人の接触する集団が種々の親密な私的集団に分化して、多様な逸脱状況が出現する。(4)逸脱の学習は特別の学習で、一般的な、通常の学習行動の一つである、などの4つの特徴的なポイントがよく当て嵌まっている。そして、非行の一過性という「非行漂流理論」にも当て嵌まっているのである。しかも、この援助交際は被害者のない犯罪であることも特徴的である。

「自分が今何をしているか堂々と言えるか」、言えないのであれば「自分の意思で選んで

いる行為が何故言えないのか」と、少女たちの心を揺さぶり、そして、「プライドを捨ててはだめ」「あなたのことをとても大事に思っている」と、少女たちを愛情を持って揺さぶり、援助交際を抑制する内面的対策を取らない限り、この援助交際は、「統制理論の社会的絆を持たなければ規範の内面化は弱く、抑制（統制）力から自由になり動物同様の本能によって行動し逸脱する」という「統制理論」のうちの「社会的コントロール理論」にしたがって拡大し続けるのである。

参考文献

・村瀬幸浩編「"援助交際"の少女たち」1997年4月25日初版 東研出版

・久田 恵記「援助交際 いじめと似た構図」1997年4月1日 朝日新聞夕刊

・東京都「青少年の生活意識調査」“知らぬは親ばかり”1996年10月12日 産経新聞朝刊

・「私もひとこと」"テレクラには心の中話せる"神奈川県匿名(学生22歳)1996年3月25日 朝日新聞朝刊

以上のレポートに対し、緑川先生から次のようなコメントを戴きました。(1)「逸脱発生理論」と「非行漂流理論」については検証手続きが必要であること。(2)「援助交際は被害者のない犯罪」と指摘したことについては「このことに言及した受講生はあなたが初めて」。(3)「援助交際を抑制する内面的対策」の項では、「規範教育でまさに Social Control Theory ですね。」(4)添付した参考文献の冊子「援助交際の少女たち」に対しては、「大変インスパイアされました。ご教示ありがとうございました」。そして、毎回提出したレポートに対しては「感想文を興味ぶかく読ませて戴きました。今後のご活躍を期待します」と励ましのお言葉

も戴きました。大変充実した面接授業でした。

編集部: 面接授業の「逸脱の社会学」は、科目名が「現代社会論」に変わっており、ここで紹介された内容も、現在とは、異なっているところもあります。授業の内容、進め方に関して、詳しくは、緑川先生自身による神奈川学習センターHPの、面接授業の紹介を御覧ください。

面接授業の想像力

坂井 素思

面接授業が終わって黒板を拭いていると、五十才過ぎと見られるひとりの学生の方が近寄ってきた。「授業を面白く聴くことができました。途中で眠くなってくると、ちょうどこれまでと違う、新しい話をするので、眠っている暇がありませんでした」と言われる。一瞬皮肉ではないかと邪推し、ちょっと顔をみてしまったが、率直で、正直な感想のようだ。

そのとおり、たしかに面接授業で場面を転回することは必要である。あたかもテレビ画面を見るように、次から次へ新しい話題が展開していき、ときには目まいを起こしそうなほど刺激的な知識の洪水が押し寄せる。などという名講義にははるか及ばないまでも、ゆるやかでも話が進んでいかなければ、受講者の興味が持続しない。たとえ紙芝居の場面が変わるごとくであってもよいから、情報の内容が新たに加えられていかなければ授業は成立しないと、わたしも考えている。同じ内容でも異なる場面を設けなければ、135分授業で繰り返すずっと同じことを聞かされたら、誰でもまいてしまう。

授業の例ではないが、若いときにコンサートを聴きにいき、そこで演奏者が一つの同じフレーズを数時間延々と繰り返して、ついにひとりの聴衆も残らなかったということがあった。興味深い実験で、繰り返しの結果がどうなるかを示す典型例と考えてよいだろうが、成功することはまれだと思われる。たとえば、わたしなどがこの方法を面接授

業で試すにはよほどの覚悟が必要である。たとえ真理を語っても、同じ表現の繰り返しでは駄目で、その場に合った表現でなければ、受け手は飽きてしまう。

なぜそうなのか? それは究極のところ、面接授業が「想像力」でできているからではないだろうか。講師が発する言葉から何かを、受講者の想像力が受けとめなければ、面接授業は成立しない。面接授業の多くでは、講師と受講者との間には、ふつう実物たる何ものも存在しないという、普段はあまり気に留めない不思議な場のなかで進行される。講義室には、その話題とされている現物が目の前に置かれることは珍しい。ここに面接授業の最大にして、深遠な特徴がある。講義を進めるなかで、「現存しないものを現前させる」ことを行わなければいけないのである。これは、すなわち「想像力」という能力が発揮させられるということである。ここで、講義を行う者と講義を受ける者とのあいだに、何か別のものが生じなければ授業は成立しないのである。この何か別のものを生じさせる力が、想像力である。講義を行う者が「社会」と言ったときに、講義を受ける者がそのあとの説明から、彼の想像力によって「社会」を思い描かなければ、そこで「社会」についての授業は成り立たない。この「社会」のような抽象的なものを、授業で伝えようとすればするほど、受け手個人の持つ想像力の役割は増してくる。

そして、さらに重要だと思われるのは、面接授業がひとりの想像力だけではなく、みんなの想像力で成り立っていることである。前に述べたように講師が伝え、それに対して受け手の学生が対応するなかで発揮されるような、受講者個々の想像力も重要ではあるが、さらに面接授業では他の受講者の反応が、参加者みんなの想像力に作用を及

談話室のポットと窓拭き

- 神奈川学習センターでの情景 -

中山 正

昼前の学生談話室は、静かな雰囲気の中で6月の日差しを浴びて、少し蒸し暑さを感じるけれど誰もいな~い部屋なのです。ふと見ると、テーブルにポットが置いてあります。持ち上げてみると、たっぷりとした重さを感じます。お湯が一杯入っています。

イラスト(省略)

そして、昼時になると図書室、視聴覚室などから学生達が集まり、TVを見たり、雑談したり、ポットのお湯もだんだんと少なくなり、やがて空っぽになります。がやがや、ざわざわと、にぎやかな雰囲気も時間がたつと、また静かな談話室にもどります。

ふと思ったのですが、この談話室もトイレも、廊下、窓ガラス、そして玄関もきれいに掃除されていることに、いままでまったく気に止めていませんでした。そういえば先日、笑顔で窓ガラスを拭いている人を見て、なぜか気持ちが楽しくなったのを思い出しました。どうしてなのでしょう。

イラスト(省略)

神奈川学習センターにきて、笑顔のある部屋、笑顔のある人達、笑顔のあるポット。そんな環境の中で私は学んでいるのです。そう考えてみますと、学習センターをいつもきれいにして、学習しやすい環境を作ってくださる人達に、感謝！感謝！。特に、雨で濡れたときも、試験で学生の数が多いうときも、フェスタ・ヨコハマのあと、いつも学習センターをびかびかに磨き上げてくださってありがとう。感謝！感謝！感謝！なのです。

ぼす。授業に参加している他の学生がいることで、受講生のあいだに微妙な影響が現れることがある。

わたしは経済学の授業のなかで、「貨幣とはなにか」をみんなに尋ねることにしている。この質問に答える本人は、現実の体験や、過去の経験そのものについて発言するのであるが、それは他の学生の想像力を刺激するらしい。貨幣というものは、実社会のなかでたいへん多様に、かつ多義的に現れる。このようにイメージが多義的であればあるほど、ひとりの人の想像力のなかだけですべての意味を思い起こそうとしても限界がある。このようなとき、講師に一方的に頼り切ってしまうような、安易な面接授業が出来上がってしまう危険がある。けれども、面接授業では他者の考えを聞く訓練を積み重ね、自分の殻を割って外に出る良い機会が提供される。ほかの学生の考えをじっくり聞いて、自分と異なる他者の意見に真剣に向き合うことのできるのが、面接授業のよいところである。もしみんなの想像力が合わされば、その効能は量り知れない。ひとりの学生の考えに触発されて、手を挙げて発言する学生の数が、途中から累積的に増してくることがよくある。この種の想像力こそ、面接授業に似合っている。

わたしが思うところ、ここに想像力に関して、二つのタイプの面接授業がある。第一に、受講者個人の想像力を羽ばたかせて、思う存分実物のイメージから解放させて、受講者に空想(fancy)的な世界を味わわせるようなタイプの面接授業。面接授業では、ふつう講師は専門家として登場する。そして、かれは受講者がこれまで知らなかったような異なる世界を目の前に描き出してくれる。このようなときに、講師と受講者個人とのあいだに成立する想像力は、受講者にとっては新しいイメージを

獲得し、これまでのイメージから開放されるようなきわめて空想的なものになる。空想は個人のなかに閉じ込められがちになり、意外なほどそれ以上の展開はもたらさない。

第二に、受講者みんなが考えを出し合ってそれをたがいに受け止めるようにして、かれらの考えを次から次に結合して溶かし込んでしまうような、想像(imagination)的なタイプの面接授業がある。ある面接授業で、ひとつのエピソードをめぐって議論を闘わせたのち、女性の学生が歩み寄ってきた。「今の議論はほかの授業で聞いたことに結びつきます。どうもそのときには理解できなかったのですが、今日ようやくその意味が掴めた気がします。」ここで、彼女のなかにある一つの想念がもう一つほかの想念に結びつき、これまでと異なる認識がそこで成立するようになったのである。他者の考えに触れることで、ひとつひとつの想像力をたがいに混ぜ合わせて、別のものを作り上げることができたのである。

この空想と想像という二つの分類は、英国の批評家コーリッジが行った文学的「想像力」のタイプ分けに従ったものだが、面接授業の分類を考えると、このことは言い当てていると、わたしは思う。さて、ここまで来ると、わたしが最後に言いたいことの察しがつくのではあるまいか。面接授業が面白いかわく面白くないかはなにが決定しているか、ということである。この結論は、半分は講師の話し方だが、もう半分は受け手であるあなたの想像力にかかっているのだという、極めて当然のところに落ち着く。もちろん、わたしは決して自分の授業のことを棚上げして責任転嫁を狙っているわけではない・・・。

「およそ芝居などというものは、最高の出来ばえでも影にすぎない。最低のものでもどこか見どころがある、想像でおぎなってやれば。」W.ジェイクス『真夏の夜の夢』

往復書簡

学習センターだより ふゆ号で、特別養護老人ホームに現在暮らしている寺崎さんへのお手紙と質問を募集いたしましたところ、橋本さんから次のようなお便りが寄せられました。寺崎さんからの返信とともに掲載いたします。

往信

寺崎様 私の父(80歳)は、'98年4月から11月まで特別養護老人ホームでお世話になっていました。はじめての冬に向かい寒がりなので、厚めの衣服を着せてもらうよう依頼しましたが、「今からそんなことでは真冬になったらどうするの」と言われました。その結果風邪をひいて、結局帰らぬ人となりました。その時、具合の悪い父を病院に運ぼうとしても、職員はやってくれないので、家族が対応した。それは、デイサービスの日なので、車があいていないホームの指定病院は入院出来ない、などの理由でした。あの時、救急車で一刻も早く入院させるべきだったと悔やんでいる。対応が1日遅れる結果となったのです。

また、ある時職員からつぎのように言われたこともあります。「食事の時、同テーブルの方の残りを頂くので、残さない人達のテーブルへ移しました」と。父は大食漢でしたのでやはり足りなかったのだ、と寺崎さんの「ふゆ号」の文章を読んで納得できました。

もう一点、気になることがあります。10月に、父は他人の入れ歯をのみ込みそうになって命拾いをしました。父の入れ歯ケースに、他の人のが入っていたようです。入れ歯の管理は職員が行っていました。父は職員が入れ間違えたと言いつけていましたが、逆に職員の方からは「自分のかどうかもわからなかったの?」と強いおしかりを受けました。最後まで、私たちの前では間違いのないしっかりした父でしたが、職員の方々からは説明はなく、「少し痴ほうが感じられますので」と言われるだけでした。このようなことをどう感じられますか、お知らせください。他には、不満はなく病院より、よく見てもらったと思っています。

寺崎さんは、外出が十分できないと言うことですが、父の時は市にお願いして、話し相手と外出のボランティアの希望を、広報に掲載していただきました。

橋本 はま子

返信

橋本様 質問にお答えできるかわかりませんが、こちらの様子をお伝えいたしたいと思います。食事の量は十分です。けれども、嗜好の問題があり、自分はケチャップやドレッシングのかかっているものは残してしまいます。そのため、足りないときは部屋で差し入れの物を食べたり、食堂に梅干や佃煮を持っていったりしています。

橋本さんのお父さまが風邪をこじらせたことについて考えてみました。私の付けている、4月某日の日記に「寒いのに暖房がついていないので、セーターを羽織る」とあったので、周りの人たちにも聞いてみました。四月には暖かい日も有れば寒い日もあるので、私のように判断能力が鈍ってきますと、自分で羽織ったりしなかったりして、風邪をひいてしまう事もあります。

質問とは関係ありませんが、最近思いつくままに書きつけたことを、日記から拾ってみました。「5月21日、目標を持たない人間は舵を失った船のようなものである。風と波に始終翻弄されてそれで良いと思っているようである。5月23日、今日は84才の誕生日。自立とは、目標を持って努力する事、頼らず、不満を持たず、使命感を持っていたい。毎日心がけていたい事は、(1)規則正しい生活をする。(2)十分に栄養をとる。(3)適当に頭と身体を使う。(4)できる範囲でボランティアをする。6月5日、物忘れが悪化しないように、すぐメモをとるようにしている。新聞を徹底して読む努力をして、テーマごとにまとめた。コソボ問題がわからない。6月9日、介護保険について講師より説明がある。6月15日、週一回、医者と看護婦が来る。具合が悪ければ提携している病院に入院する事になる。夜、医者がいないのは不安である。」

寺崎 茂

編集部 :寺崎さんは現在、左手、左足が麻痺しており車椅子の生活をしている。昨年までは放送大学の「老人の心理学」などを勉強していたが、また始めてみたいと、意欲を持っている。何しろ忘れっぽくなったと嘆いていらっしゃる。今いる特別養護老人ホームは良く面倒を見てくれ、全般的には満足しているとのこと。

北欧観光見聞記

田中 静一

西洋と言いつ、ヨーロッパと言いつ、われわれはとかく西欧諸国のみを頭に浮かべる傾きがある。近代文化形式の大業が主として西欧諸国やアメリカ合衆国で成就されたことを想えば、それは当然なこととも言えようが、しかし近代の西洋文化、ひいては西洋文化全般を根底的に理解するためには、北欧諸国が演じた歴史的役割を無にするこ

とは出来ない。その為には、北欧史を知ることではなく、実際、目で確かめることである。そこで北欧ハイライト9日間の観光旅行に参加し、北欧の一部を見聞してきた。

先ず北欧人の性格や環境についての感想を述べておきたい。これはどの旅行者も一様に感じることはあるが、イギリス、フランスまたはドイツを後にして一歩北欧諸国(スウェーデン、ノルウェー、デンマーク)に足

を踏み入れると、ヨーロッパ文化を代表するイギリス、フランス、ドイツの三国では得られなかった雰囲気を感じることである。繁華街でも横断に困るほどの自動車は走っておらず、車は昼間でも、皆ライトをつけて走っている。自動車より寧ろ自転車の多いのに眼をみはるのであるが、自転車道と歩道がいたる所で、はっきりと区別されている。自転車に乗る人も、街を歩く人々も、華美ではなく、誰も

が整った服装をしている。下町と思われる方面を散歩しても、みすばらしい格好をした人々や浮浪者などは見受けられないし、薄暮の一時が過ぎても、旅行者を脅かす怪漢やあやしげな婦人の姿も認められない。どの人に路を尋ねても、多くは英語で親切丁寧に教えてくれる。中には片言の日本語ができる人もいて、楽しい会話ができる。

商店街を覗き歩いて感ずるのは、芸術商品が豊富なことは勿論であるが、流行のみを追うといった軽薄さがない。品物の価格は相当高いが、どれもが堅実に出ていて長い使用に耐えることが特徴である。それに価格が高いのは、その中に物品税（日本での消費税に相当するもの）が25%含まれるからである。これらの税金は「ゆりかごから墓場まで」に象徴されるように、社会福祉施設に相当投入されている。例えば病院などは国営であり、一般患者は無料で治療が受けられるとの事である。また雪融け水が豊富なため、飲み水は清涼で飲料水には不自由しない。それに水量が豊富なため、各所に水力発電所があり、電気料も非常に安い。そこでアパートなどでは洗濯機、乾燥機（日照期が少ない）など備え付けが

多く自由に使うことができる。ホテルに帰っても、ボーイ達は予め掌を差し出してチップを待つこともなく、また磨いて貰うために就寝時に靴を廊下に出しておいても、盗難の気遣いはいらない。

ホテルの窓から外の景色を眺めていると、時には隊伍をなして軍隊が行進する。スウェーデン人などは、これを整備のよい勇武な軍隊として誇っているが、ドイツやイギリスを見て来た旅行者の眼には、整備はよくないし、どうしても精鋭勇士な軍隊とは映らない。200年以上も実戦の経験のない軍隊であるし、また平和で豊かな田園生活を享受している緩和なスウェーデン人の軍隊である。気魄に乏しいと考えてしまうのも、故無きことではない。無論、彼等には、一徹で粘り強い気性も潜められている。ストリンドベルイの作品などは、よくその一面を著していると思う。

北欧にも小鳥は多い。しかし路頭に降り立った小鳥は、人が行けばよけるだけであって、飛び去ったりしない。日本の小鳥の敏捷さが思いやられる。北欧諸国に遊んでそうした事柄を見聞する時、われわれはつくづくと一体文化とはなにかというこ

とを、自らに反問せざるを得ないのである。

北欧の諸王国では、国王が非常に尊敬、敬愛されているとのことである。市電の吊革を握る皇太子、従者もなしにデパートで買物をしている皇太子夫妻を目撃することである。無論これらの国々にも、階級闘争はあるが、われわれから見ると齒がゆいほど彼らの運動は微温的である。

昔日本で公開されたスウェーデン映画で「ひと夏の幸福」（日本では「春の悶え」）には、恋人の男女が衣類をすっかり脱いで湖畔で戯れる光景が見られるが、全く北欧人は貪婪に夏をむさぼるのである。しかし残念ながら、今回はこれらの光景を見ることはできなかった。だがこれが絶頂に達するのは夏至祭であって、老いも若きも、子供も男女の区別なく5月柱（Majstang）を囲み、手をつないで昼夜踊り狂うのである。この夏至祭は一年中抑えられていた精気が爆発したという感じである。確かに夏は、人々を陽気に、そして幾分熱狂的にする。

このたびは、たいへん短い旅行であったが、このように一年で最も活動的な、過ごし易い夏に、北欧の旅ができたことは、大変有意義であった。

学生団体・サークル からのお知らせ

「フェスタ・ヨコハマ」のお知らせ

第13回 フェスタ・ヨコハマ開催

- ・日時 8月29日(日)
- ・場所 放送大学神奈川学習センター
- ・講演会 渡邊二郎教授の講演です。
演題「美と愛と恋と詩」

午前10時開場 10時半開始です。

囲碁将棋大会は午前9時開始

・フェスタ・ヨコハマは学習センター所属の学生団体が共催する学園祭です。

例年認定試験直後の8月初めの日曜でしたが、今年は学習センターの都合で第5日曜の8月29日(日)になりました。

午前中は講演会と囲碁将棋大会
午後は例年通りのビアパーティです。

参加券は1,000円です、認定試験中と8月の集中面接授業時に販売します。

フェスタ・ヨコハマ実行委員会

神奈川放友会

神奈川放友会は会員相互の交流の輪を拡げて親睦を図り、学習を援助する為に下記の活動をしています。

- ・行楽と研修を兼ねた旅行
 - …研修旅行(大学本部・図書館等)
 - …旅にいこう会(行楽地・名所史跡等)
- ・学習に関する情報交換
- ・会員相互の研究発表

通信指導は無事済みでしたか? 7月に入ると直ぐに認定試験です。

1999年7月1日

神奈川放友会では行楽/研修と共に情報交換にも力を注いでおり、会員からの情報を基に学習履歴データベースを作成し、着々と会員相互の情報交換を進めています。

放送大学での学生生活をより一層充実させ交流の輪を広げたい方に入会をお勧めします。

- ・行事予定(7月~12月)
- 8月1日(日) 例会(情報交換)
- 8月29日(日) フェスタ・ヨコハマ
- 9月11(土)~12日(日) 一泊研修旅行
- 10月 始(日) 歓迎会/例会
- 10月17日(日) 日帰り旅行(行先未定)
- 11月20日(日) 例会・研究発表
- 12月18日(土) 忘年会・例会

注: フェスタ・ヨコハマは学習センター所属の学生団体が共催する学園祭で、今年は渡邊二郎教授の講演と例年通りのピアパーティを予定しています。(今年は学習センターの都合で第5日曜です)

照会/入会申込 連絡先
〒235-0023 横浜市磯子区森 1-15-1-810
吉田 昭二
Tel/Fax 045-752-2783

放送大学同窓会

神奈川学習センター同窓会は、1999年3月で698名の会員を有し3つの柱を掲げ活動を行っています。

1. 会員相互の親睦
2. 生涯学習の実践
3. 社会への貢献

5月16日に通常総会を開催、その後に、放送大学助教授の笠原潔先生による「洋楽移入の入り口、横浜」を演題とする講演会が行われ、盛況で楽しい会となりました。終了後親睦会を持ちこちらも盛況に終える事が出来ました。

6月20日には横浜動物の森公園、県立四季の森公園への見学会を開催。

10月には第5回鎌倉散策を予定しています。

社会への貢献として、フォスタープラン活動へ参画、現在四人のチャイルドを支援しています。今年度は、フォスターチャイルドがどのような暮らしをしているか、われわれの援助金がいかにどのように使われているかを、タイのウドンタニへ視察に行く予定です。こちらへ参加希望の方、又、詳細についての質問などは、E-mail:NBB02754@nifty.ne.jp 田澤まで

“うえるかむ” & 英会話サークル

新学期から4,5人の方が仲間入りして賑やかになりました。私達、英会話の方は?というとなかなか上達しませんが海

外旅行の好きな人が多く、自由に英語を話せたら...と夢を追いかけいています。

Nancy クラスで少し緊張した後は“うえるかむ”で楽しく勉強したりおしゃべりに花を咲かせています。6月20日には各支部合同行事で、神奈川学習センターの私達が鎌倉を案内して紫陽花やいろいろな花を楽しみながら親睦を深めました。

例会: “うえるかむ”

神奈川...第三木曜 13:30 ~ 15:30

第四水曜 13:30 ~ 15:30

各支部合同...毎月一回程度

“Nancy クラス”

第二水曜 10:00 ~ 11:30

第四水曜 10:00 ~ 11:30

サークル参加希望の方は下記へお問い合わせください

坂本;0467-31-8036(19時以降)

星 ;045-844-9647

人間学研究会

行事予定(99/7~99/10)

【例会予定】例会は、7/11(日)、9/12(日)、10/17(日)を予定しています。なお、フェスタ・ヨコハマは8/29(日)実施の予定です。

【歩きましょう予定】富士登山:日時は未定ですが、1泊2日で富士登山を予定しています。

8/01(日)~04(水) 南アルプス登山: 悪沢岳、赤石岳、聖岳に登ります。

「おくのほそ道を歩く」は、第6回(5月)の榎木宿~今市宿、第7回(6月)の今市宿~矢板に続き、今後も定期的な実施を予定しています。

連絡先: 大出 鍋蔵(0468-41-7937)

神奈川学習センター 学生研修旅行の お知らせ

1999年度学生研修旅行が、10月に行われます。今年度は、黒船来航の旧跡を訪ねて、久里浜・横須賀・横浜を巡ります。担当は、笠原助教授。詳細は追って掲示いたします。

平成12年度卒業研究の申請

例年通り、卒業研究の申請を受け付けます。

申請には、卒業研究のための要件を満たしている必要があります。「履修の手引き」と「履修の手引き(別冊)」が、現在神奈川学習センターの窓口で配布されておりますのでご検討ください。

新規履修申請の方は、

提出期間:平成11年9月1日(水)~10月1日(土)必着
再履修の方、未提出の方、不合格の方は、提出期間が異なりますので、詳細については、「卒業研究履修の手引き(別冊)」でご確認ください。

放送大学学生募集

平成11年度第二学期

- ・出願受付:平成11年6月15日~平成11年8月15日
- ・授業開始:平成11年10月1日
- ・資料配布:平成11年6月15日から
- ・興味のある方・入学を希望する方には、入学手続きや授業内容を記しました募集要項と授業科目案内を無料でお送りします。はがき又は電話で、神奈川学習センターへ請求してください。

神奈川学習センターだより編集部

発行者:新飯田宏

編集者:五十嵐、遠藤、星、

加藤、松本、皆川、吉田、

斉藤、浅野、坂井

・Internetのホームページは、

<http://www.dango.ne.jp/ua-kanag/>

・Eメールの宛て先は、

social@u-air.ac.jp

・今回のイラストは、早瀬川さんと中山さんに描いていただきました。次回は、「スポーツ」について、特集をくむ予定です。学生の方の原稿を募集しております。

・第二学期に、神奈川学習センターでは大幅な増築が行われることになりました。次の号で詳細をお知らせいたします。

・キャンパス・ネットワークのID番号とパスワードを、学習センター窓口で配っています。センターでインターネットと電子メールを行うことができます。